令和６年度広島県献血推進審議会議事録（概要）

１　日　　時　　令和７年２月 13 日（木）　１４時 30 分から 16 時まで

２　場　　所　　広島市中区千田町二丁目５番５号
広島県赤十字血液センター２階研修室

３　出 席 委 員　　１８名（〇：会長）
西本　博之　委員　（広島県議会　議員）
杉原　清香　委員　（広島大学原爆放射線医科学研究所　助教）
〇落久保　裕之委員　（一般社団法人広島県医師会　常任理事）
北原　加奈子委員　（広島県健康福祉局　局長）
※ 増井　博文 氏　（広島県健康福祉局　健康危機管理担当部長）代理出席
田中　　勲　　委員　（広島県公立高等学校長協会　副会長）
石原　政将　委員　（日本労働組合総連合会広島県連合会　副事務局長）
石松　大介　委員　（西日本旅客鉄道労働組合広島地方本部　執行委員長）
薮本　敬士　委員　（ＪＡＭ山陽広島県連絡会　会長）
横山　鉄幸　委員　（公益社団法人広島県労働基準協会　専務理事兼事務局長）
山本　　幸　　委員　（広島県地域女性団体連絡協議会　理事）
武田　直也　委員　（一般財団法人広島県環境保健協会　常務理事）
小池　英樹　委員　（社会福祉法人広島県社会福祉協議会　常務理事兼事務局長）
岩上　譲治　委員　（公益財団法人広島県交通安全協会　専務理事）
濱本　義樹　委員　（ライオンズクラブ国際協会 336-Ｃ地区
地区糖尿病等保健福祉委員会　委員長）
鉄村　忠基　委員　（広島市献血推進協議会　副会長）
川畑　勝之　委員　（呉市献血会　会長）
田中　知徳　委員　（福山市献血推進協議会　委員）
坂井　浩明　委員　（日本赤十字社広島県支部　事務局長）
麻奥　英毅　委員　（広島県赤十字血液センター（以下「血液センター」）　所長）

４　議　　題　　◎報告事項
・広島県の献血状況
・令和６年度広島県献血推進計画に対する実施状況
・赤血球及び血液製剤の在庫状況
・県内の献血の現状について
◎審議事項
・令和７年度広島県献血推進計画の策定について

５　担 当 部 署　　広島県健康福祉局薬務課製薬振興グループ
TEL（082）513－3223（ダイヤルイン）

６　会議の内容　　報告事項及び審議事項について事務局が説明し、委員からの意見、質問に答えた後、令和７年度広島県献血推進計画について審議し承認された。

◎報告事項

・広島県の献血状況及び令和６年度広島県献血推進計画に対する実施状況について、事務局（広島県健康福祉局薬務課（以下「県薬務課」）から令和６年度広島県献血推進審議会資料により説明。

［質問・意見等］

（西本委員）

年代別献血者数を見た際に、50 代や 60 代が増加していて、40 代以下が減少したのか。このことについて、どのように分析し、見解を持っているのか、教えてください。

（事務局（血液センター））

ご質問ありがとうございます。少子高齢化も１つの要因だと思います。現在、40 代以上の方が献血者の７割以上を占めている状況でございます。

これに関しましては、やはり現在の 40 代の方が 10 代の時に、初回献血いただいており、20 代 30 代とそのまま年月が経過していると考えています。引き続き、40 代以上の方にも協力頂きながら、若年層への協力を促すべく、集団献血等に協力いただける企業・団体数を増やしていきたいと思います。

（西本委員）

ありがとうございます。若年層への対策のため、新たな取り組みや変わった取り組みを行う必要があるのではないかと思います。先ほどの説明資料の４ページ５ページですが、これを見ると 40 代が昨年よりも減少しているような気がします。昨年よりも増加している都道府県の取り組みを参考にしては良いのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

（事務局（血液センター））

隣県の岡山県ですが、10 代の献血率が緩やかではありますが伸びております。それに関しては、学域への献血バスを増便するとともに、献血の重要性を伝えるセミナーを実施する取り組みをしているということで実績が伸びたと伺っています。

（西本委員）

ありがとうございました。岡山県で献血率が上がってるということで、良い話を聞かせていただきました。若年層をとらえるために学校献血に取り組んでいるということで、本県でもそういった取り組みをしていますが、若年層を取り込むためには、やはり学校の中に理解と、そして、献血の重要性というのをしっかり周知する取り組みが大事だと思うので、引き続き、教育委員会等との連携をしながら、全校、全生徒に対して献血の理解とご協力していただき、引き続き、取り組んでいくようお願いしたいと思います。ありがとうございました。

（落久保会長）

ありがとうございました。

広島県立高等学校長協会副会長、田中委員ご意見ございますでしょうか。

（田中委員）

献血を一度もしたことがないという生徒がほとんどであると思います。認識が不足している面だけなのか、それとも、その例えば痛いとか怖いとか、時間を取られるとかそういう負のイメージもあるというのは、基本的には聞いてみな

いとわからないところですけども、確かに献血に対する認識が不足してるところはあると思います。昔は、献血車が学校に入って、献血する機会がありましたが、最近ほとんどそういうことがなくなってきて、まず機会がないということは確かにあるかなと思います。学校での取り組み、献血セミナーは、献血のことを知る重要な取り組みだと思います。

（鉄村委員）
　小学生が献血できないにしても、小学校に献血車が行って、ＰＲ活動を行うなど小学生に関心をもってもらう、献血が大事ということを提案できるような取り組みが良いのではないかと思います。
　昔は血液をお金で買う時代もありましたが、今はもう本当に若い人に頼らないと、我々の自治会でもなかなか若い人は関心がない。しかし、会社ですれば何人かは献血してはいただける状況かと思います。それであと、70 代になるともう献血ができない、これももうどうしようもない。そうすると、小学校からそういう学校教育の一環として献血のＰＲができれば良いと思います。

（落久保会長）
　ありがとうございました。
　医師会の禁煙活動ですけど、一番効果があるのは小学生に禁煙活動について重要性というのをお伝えするというのが、一番効果があると言われているので、若年の方々に向けての働きかけをお願いしたいと思います。
　現場に行って献血者が増えたという状況がありますので、事務局も大変であろうかと思いますけど、現場で献血活動というのが間違いなさそうですので、ぜひご検討していただきたいと思います。

・赤血球及び血液製剤の在庫状況及び県内の献血の現状について、事務局（血液センター）から令和６年度広島県献血推進審議会資料により説明。

麻奥委員（広島県赤十字血液センター所長）から挨拶。

［質問・意見等］
（田中勲委員）
　採血してから実際に患者に提供できる血液製剤になるまで、時間がどれくらいかかるのかということと、どれくらいの有効期限なのか教えていただきたい。

（事務局（血液センター））
　ご質問ありがとうございます。
　全血献血、赤色の血液製剤ですが、製剤化は３日後で、採血後２８日間が有効期間です。成分献血、血小板製剤、こちらは翌日製剤化され、４日間が有効期間なので、長期保存が難しいです。血液製剤は人工的に造ることができないので、毎日ある程度の需要と供給を調整する必要があり、医療機関からの要請については、適宜対応しています。

（田中勲委員）
　ありがとうございました。

（山本委員）
　献血は、女性だったら年２回できる、男性だったら３回できる。何日、何ヶ月

くらい空けたら良いとかあるのでしょうか。

（事務局（血液センター））
　男性が年３回ですが、年間総量で考えていただければと思います。１年間の可能な採取量は 1,200mL です。400mL 献血では間隔が 12 週間で、おおよそ３か月と思っていただければと思います。女性は 16 週間、年２回、年間総量は 800mL です。なので、我々が企業を回ってご協力をいただいている献血回数は年２回にしております。

（山本委員）
　北広島町では、新庄高校１回と年３回ですかね、来ていただいて、協力させていただいております。

（事務局（血液センター））
　引き続き、よろしくお願いいたします。

（落久保会長）
　ありがとうございました。その他何かございませんでしょうか。
　私からお願いがありますけれども、初回献血をした人がその後どれぐらい、献血に参加しているのかデータがあれば、教えていただきたいのですが。今回の資料の中にございますでしょうか。

（事務局（血液センター））
　資料の方には含まれておりません。現状としましては、初回献血者は減少していると思われます。ですので、そもそもの初回献血者を増やすべく、若い世代が多く含まれる大学、学校献血に力をいれております。

（落久保会長）
　それでは次回、来年度の会議の時に、そのようなデータをお示ししていただければ、ご意見をいただけるのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。その他何か皆様ございませんでしょうか。
　献血は、実施しすぎると血液製剤を余らせて廃棄するようになってしまいます。需給と供給のバランスを保つべく計画が必要だと思います。

◎審議事項
・令和７年度広島県献血推進計画の策定について、事務局（県薬務課）から広島県献血推進審議会議案書及び令和６年度広島県献血推進審議会資料により説明。
　［質問・意見等］
（西本委員）
　22 ページの令和７年度の目標量 52,963Ｌの根拠がわかりにくいです。血液が不足していると言われている中で、日常にはあまり影響が出ていないということはわかりますが、目標数は必要な血液というところに対して、血液を確保する必要があるという意味で、本来目標値は増えるべきであると思ったのですが、そのところがよく理解ができていないので、目標数に対して、もう少し補足説明をいただければと思います。

（落久保会長）
　はい、ありがとうございます。目標値の算出根拠について、ご議論いただければと思います。

（事務局（血液センター））
　需要に見合った採血計画としております。
　全血献血、成分献血を採血できるのですが、全血献血は、28 日しか有効期限がなく、日によってはバラつきがあるので、それに見合った採血計画で採っています。成分献血のうちの血小板成分ですが、こちらは減少傾向にあります。こちらは需要に合っているための減少と聞いております。一方、血漿成分については、令和６年度の目標量が 10,479Ｌ、令和７年度は 12,853Ｌということで、増加しています。資料はありませんが、献血いただいたら、輸血用血液製剤と血漿分画製剤に分かれ、血漿分画製剤免疫グロブリン製剤の需要が近年増加傾向にあります。これは、重度の感染症に使用されます。献血血液から製造される原料血漿を使用して製薬会社が製造していますが、こちらの需要が年々増えておりますので、このような計画となっております。

（西本委員）
　ありがとうございます。
　この減少していく理由としては、人口減であるとか、輸血対象の患者の方々が増えていって治療方法が変わってくるとか、そのような影響もあるのか、具体的な内容というのは血液センターの方では把握されていますか。

（麻奥委員）
　先ほどの説明を簡略化してお話しますと、赤血球と血小板、血漿、３つに分けて使用します。
　赤血球に関しましては、広島県では若干増加傾向にあります。ただし、中四国全体では、減少傾向です。血小板につきましては、中四国、広島県においては減少傾向です。
　血液目標量の 52,963Ｌというのは、そういうものを全部足し合わせて算出したものになりまして、総数としては減少傾向ということになります。血小板については、医療方法が良くなっているため、使用数が減っているのではないかと思われます。

・令和７年度広島県献血推進計画について審議し、原案どおり承認された。

◎その他
　［質問等なし］

審議会終了

７　会議の資料名一覧
〇令和６年度広島県献血推進審議会次第
〇令和６年度広島県献血推進審議会資料
〇広島県献血推進審議会議案書